



# 東京多摩プロバスニュース

第 30 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行:編集委員会 2010. 5. 12

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## 豊かな経験を生かし、多彩なプロバスライフを

### 第 69 回 定例会

日 時 :平成 22 年 3 月 3 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :関戸公民館第2学習室

出席者 :29 名(会員数 37 名)

### 第 70 回 定例会

日 時 :平成 22 年 4 月 7 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :関戸公民館第2学習室

出席者 :31 名(会員数 37 名)

### ◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

#### 物づくり雑感

研修・親睦委員長 増山敏夫

#### 理 念

1. 豊かな人生経験を  
生かし地域社会に  
奉仕する
2. 奉仕の機会として  
知り合いを広める
3. 活力ある高齢社会  
を創造する
4. 非政治的、非宗教  
的、非営利的とす  
る

初めて旅したブータンでのこと、美術学校見学の機会があり、学生達の仏画の模写や伝統的な岩彩絵、木彫りなどの実習を見て、なんと古典的と思った。ところが今度 2 度目の旅をして、このカリキュラムをなるほどと思ったのである。この国ではこういう訓練がそのまま社会に繋がる。建築も伝統的な木造建築をほぼ継承して、どの集落も見事な景観である。伝統的な仏教美術が深く根付き、寺院や住まいにこうした美術職人が欠かせないのである。大工仕事も然り。戦後多くの伝統文化を失った日本と比べると羨ましくもある。多くのヨーロッパの国々も伝統文化を大切に継承している。街は伝統的な様式を熟慮して残し、新しいデザインはこのことを無視しては成立たない。この新旧複合の綾が街の魅力になっているのである。



若い頃親炙した宮大工・棟梁に言われたことがある。「自分の大工仲間に車大工と船大工がいた。荷車がなくなり車大工が消えた。木造船が減り船大工も風前の灯火だ。建築大工だって同じだ。職人がいなくなれば建築家がいたって、ちゃんとした建築は造れないよ。お前等も職人を安く叩くだけでは、いずれ自分の首を絞めることになる。職人を育てるのも建築家の大事な仕事だ…」と。建築現場は子供達の好奇心を充たして余りあ

るものだった。木を組むことを基本とする伝統木造は「物づくり」の知恵の宝庫である。経済原理に流されるだけでは「物づくり」のセンスは継承していけない。子は親の背中を見て育つというが、「物づくり」の現場も生活の中(子供の生活圏)にあってこそと思う。木造とはいうものの、今や住宅建築の大半は工業製品による工業化工法である。ここでの仕事は本来の大工職人の仕事とは乖離したものである。これでは伝統技能を継承していける大工は育たない。住宅を求める側のユーザーにも良い意味でのダンナになって、職人を育てる視点を持ってほしいと思うのである。



新旧合同理事会 (3月31日パルテノン多摩4F)

## 1. 会長メッセージ (第 69 回定例会) 村上伸茲会長

2月25日に行われた八王子プロバスクラブの「第14回生涯学習サロン」の開講式に、多摩プロバスクラブの会長、副会長、幹事が招待され参加しました。会長が祝辞を述べましたので、その要旨を紹介して、報告に代えます。

「第14回生涯学習サロンの開講式おめでとうございます。継続的・発展的成功を成し遂げていることに敬服いたしております。これは個々の会員が持っておられる文化の多様性(知識・経験・価値観)をパワーに変えているためだと思います。講師の持つ文化を参加者がグループ討議を通して共有されているからだだと思います。私共も、この学習方法を真似(EMULATION)したいと思っています。益々のご発展をお祈りします」。

## 2. 幹事報告 登坂征一郎幹事

### 1) 「理念」改定の提案と審議

「理念」改定の提案があり、「理念」の原理を踏まえて改定の主旨・改定案について理事会で審議。改定案ならびにその主旨について第70回定例会に提案し、会員の意見を反映して、臨時総会にて議決することになった。

### 2) 2プロジェクトの発足

当クラブ会員の豊富な知識と経験を地域奉仕などに資するために、また、温暖化、生物多様性など多岐にわたる環境問題を具体的なテーマに絞って活動につなげていくために、各委員会を横断して下記2プロジェクトが発足した。

#### ① 「オープンプロバス」プロジェクト

#### ② 「環境問題」プロジェクト

## 3. 委員会報告

### 3.1 総務委員会 中村昭夫委員長

#### 1) 3月定例会 出席者29名、欠席8名

横畠文美氏による「世界の高齢者の暮らし方、生き方」講演を拝聴し、これに引き続いて「高齢者の生き方」というテーマで活発な座談会を行った。

#### 2) 4月定例会 出席者31名 欠席6名

蓮池(守)会員、山田(正)会員による講話「多摩の歴史」を拝聴、引続いて質疑応答により多摩の歴史についてさらに認識を深めることができた。

#### 3) プロバス理念の検討

新たに発行を予定しているパンフレット等に理念を掲載するにあたり、現行の理念の見直しを理事会に提案し、総会決議事項として扱うこととした。

### 3.2 研修・親睦委員会 増山敏夫委員長

#### 1) 3月17日午後、渋谷NHK放送センター見学

23名が参加。北村克彦会員のお骨折りで実現。「ためし

てがってん」、「竜馬伝」のスタジオ、ラジオニュース、迫力満点の3D映像の鑑賞など、旺盛な好奇心を充たす一日。北村会員に感謝。

#### 2) 3月31日、宝野公園で恒例の花見

寒い日が続き、紅薔の楚々とした眺め。肌寒い曇天ながら18名もの参加を見た。用意した酒は全て平らげ、体の中から温まった。



研修・親睦委員会の面々 関戸公民館ミーティングルームにて

### 3.3 地域奉仕委員会 神谷真一委員長

#### 1) 3月3日(水)

市内、小学校でのソロバン教室、3月5日(金)と3月8日(月)、東寺方小学校で開かれます。お手伝いに参加できる方は申し出下さい。

#### 2) 4月7日(水)

2月、3月にわたり計10回のソロバン教室を開きました。古澤靖雄会員には講師として御苦勞をおかけしました。また、お手伝いに参加して頂きました方々に感謝いたします。

今年の秋に開催します仮称「オープンプロバス」につきましては、別途お話をさせていただきます。

### 3.4 広報委員会 滝川益男委員長

#### 1) ホームページ

当クラブのホームページは隔月毎に更新されます。

URL:<http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

3月は「最近の活動」や「年度別行事一覧」「卓話の一覧」「東京多摩プロバスニュース」「お知らせ」などのページを更新(3月21日)しましたのでご覧ください。

#### 2) プロバスニュース

このところ8ページ建てにしていますが、編集委員会を開催して掲載する記事とレイアウトを7名の広報委員で検討して各ページの分担を決めています。原稿の執筆者へのお願いは、理事会と定例会に各分担広報委員から行わせて頂いています。会員の皆さんの絶大なご協力のもとに、原稿を頂き2か月ごとに発行しています。当クラブのホームページでも検索で見られるように、第26号から第29号まで掲載しています。それ以前の号は、プロバスニュース概要一覧で構成がわかります。

## ◇◇◇ 「オープンプロバス」発進 ◇◇◇

### 「オープンプロバス」の概要 神谷真一会員

東京多摩プロバスクラブは、理念の一つ「豊かな経験を生かし…」のもと、「オープンプロバス」プロジェクトチームを編成しました。今期・次期の地域奉仕委員をもとに、他委員会より数名が参加し15名で構成されます。メンバーは、実行委員長：蓮池守一、副委員長：神谷真一、滝川道子、補佐役：上田清、大熊妙子、岡野一馬、登坂征一郎、中村昭夫、蓮池光枝、坂東熙子、平田哲郎、古澤靖雄、堀内陽二、増山敏夫、山田喜一の方々です。

会期は平成22年9月21日(火)から27日(月)までの7日間。会場は関戸公民館の市民ギャラリーと学習室を使用します。市民ギャラリーには、当クラブ会員の作品を中心に、例えば油絵・水彩画・スケッチ画・陶芸作品を、写真では人物・風景・花などを、昔遊びの玩具としては竹・木・藁などを使った道具を展示するほか、おもちゃ

病院の開設、環境問題プロジェクトのコーナーや、当クラブの活動をビデオ映像と写真で紹介するコーナーを設置。さらに当クラブ・サークルの釣り・サイクリング・料理・俳句・ゴルフ・旅のデザイン・グルメ・美術などの活動を写真で紹介するコーナーも設ける予定です。

一方、関戸公民館8階の学習室では、当会員が培ってきたソロバン教室・華道・煎茶教室・礼法・江戸しぐさ・着付け等の講話や実演教室、大正琴体験教室、具合合わせの講話や実演、「多摩の昔と今」の講演などを計画。高齢社会に寄与可能な講演等は外部との共同も考慮し、これらの内から可能な事業を選び、私達が模索している環境問題などは他団体との協働活動も含めて9月25日(土)に実施したい。それらのことが決まってから、予算の計上、PR方法、招待者、紹介する関連団体その他のものを考えていきたいと思えます。

## ◇◇◇ 環境プロジェクト発足 ◇◇◇

### 環境問題プロジェクトの概要 稲田興会員

第69回定例会で設立を促された環境問題プロジェクトは、3月31日に初会合を開き、稲田興リーダー、西村政晃サブリーダー、村上伸茲、登坂征一郎、蓮池守一、北村克彦、上田清、神谷真一の計8名で発足。環境問題は非常に多岐にわたるため、多摩プロバスとして何に取り組むべき

か、焦点を絞っていく。この点にしばらく時間をかけて検討していくことにしたが、当面、①市内の環境問題に取り組んでいる民間団体の調査、②会員各位の意識高揚を図るため、各自の炭酸ガス排出量がどれくらいあるのかを数値で認識する、③この活動に参考となる団体やエコハウスなどの見学会を催す、などをテーマに取り組むことにします。

## ◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

### 極寒のヤマメ釣り

毎年3月の溪流釣りは当サークルの恒例行事。今年も解禁日翌日の3月2日、上田清リーダー、岡野一馬、神谷真一、滝川益男の4メンバーが道志川を攻めたが、この日は稀にみる極寒のなかを震えながらの釣りとなり、釣果は筆者(ゼロ)を除いてそれぞれヤマメ1尾の貧果だった。



釣り師の4メンバー

### 滝川益男会員

### 美術サークル

今年は寒い春が続いた故か、ことのほか桜の持ちがよい。樹種の違いもあって、一か月近く花を楽しむことができた。

4月11日、小山田緑地トンゴ池上の桜広場へ行く。淡紅色の桜、黄色の菜の花、薄緑の草と春爛漫の絵になる風景である。桜は日本人好みの花だ。咲き始めよし、満開よし、花吹雪よしである。昭和一桁生まれの私は「万葉の桜か襟の色…」の軍歌も思い出す。だが絵は案外難しい。常連は鴻池、山田、増山、登坂、上田、関根の諸兄である。

### 岡野一馬会員

## ◇◇◇ お花見会 ◇◇◇

### 歓談に華咲かず

今年のお花見は市内にある多くの桜の名所のなかから「宝野公園」が選ばれた。ここは知る人ぞ知る桜の名所。幅20mを超える芝生のグリーンベルトの両サイドに並ぶ桜並木は、その時を迎えると、先が見えないほど長く続く桜のトンネルと化し、さらにその先には真白き富士が眺められるという。まさに圧巻の一言に尽きるらしいのだが、3月31日当日はそれまでの寒さは収まったものの、あいにくの薄曇り。都心の開花宣言からは一週間もたっているの

### 稲田興会員

に、まだ二分咲きにもみたくない。集まった18名の会員は、つまみやお酒を囲んで気炎をあげ始め、いつの間にか花観賞はそっちのけの談義に突入。約2時間半、ワイワイガヤガヤと楽しく、歓談に華を咲かせた。



宝野公園でのお花見

◇◇◇ 講話と座談会「高齢者の生き方」 ◇◇◇

平成22年3月3日第69回定例会では、世界各地を訪ねて語学勉強をしつつ、長期滞在をして“高齢者の生き方”を探求しておられる多摩市国際交流センター(TIC)会員・横島文美さんから講話をいただきました。

「世界の高齢者の暮らし方・生き方」 横島文美氏



講話中の横島さん

2008年10月から2009年5月まで約7か月間、11か国31都市を訪問した私たち夫婦の世界一周旅行。40代の夫婦が世界をまわる意味を持たせるため、各国で「高齢者の暮らし」をレポートしながら歩みを進めました。

◆旅のキッカケ

前職で高齢者施設の広告宣伝・セールスプロモーションに携わっていた際、入居されている高齢の方、そのご家族の方にお会いする機会が多く、「人には必ず『老い』が来て『死』が来る」ということを強く実感しました。夫と何気なく話していた際に「私達がいま死ぬとしたら、後悔することは？」という話題になり、その結論は「10年前にサンディエゴで出会った世界中にいる友人達に再度会いたい。それも、彼らが元気なうちに。自分達も元気で親の介護が必要ないうちに再会したい」。これが結論となりました。そして、世界一周航空券の存在を知り、「世界一周は『夢』ではなく『実現可能』であるということが分かったので、早速準備を始め、2008年10月に日本を出発しました。

◆各国の高齢者の暮らしを見て

アメリカ、メキシコ、中南米、エジプト、ヨーロッパにて、個人へのインタビュー、お宅訪問、現地でお会ったご夫婦宅に1週間滞在、高齢者施設の見学など、さまざまな貴重な体験をさせていただきました。街で見かける高齢者の様子もあわせ、私が実際に目で見て肌で感じたこと。それは、高齢者が明るく元気に、楽しく暮らしている街・国にはパワーがある、ということでした。

また、そういう街・国に共通しているのは、身近な人に対して優しく思いやりのある人々がいることです。

世界の高齢者の姿から「人生を作っていくのは自分であり、自分でこれからの人生は選べる」「年齢は言い訳にしない」「大人が元気に楽しんで暮らしている様子を見れば、子どもにも夢・希望が与えられる」と実感しました。

私たちの旅は第一章が終了しましたが、これからも“幸せに歳を重ねるヒント”を見つけるため、第二章、第三章と旅を続けてまいります。



デンマークの御夫妻

◆ 座談会 ◆

横島さんの講演に続き、講師を囲んで座談会を開催しました。そこで出されたいくつかのコメントを紹介します。

KY氏「米国ではボランティア活動が活発で、多摩市の高齢者のように7割以上も家に閉じ籠っているようなことはない」

AY氏「欧米では自宅引き籠りも結構いるが、ボランティアのサポートが盛んです」

KK氏「高齢者は健康管理が第一。そして好奇心を持ち、実行することが大事だと思う」

HN氏「欧州では高齢者をサポートする体制が整っているが、最近ではおたがいに助け合って生きていく意識が、少しずつ薄らいで来ているように感じる」

KI氏「中国では当然の事として子が親の面倒を見ている」

YN氏「今の日本社会では、病気になったらどうしよう？って感じ。家族が壊れており、“自分だけ良ければいい”と隣人に無関心で、連携がない。金持ちは長生きでき、貧しい人は長生きできないのはいいか？ 高齢者は転ばない、怒らない、風邪を引かないことが大事」

AN氏「自分の人生を自身で楽しむ。自分に求められたことに積極的に応えてゆきたい。最終的には生きていて良かったという人生を送りたい」

◇◇◇ 施設見学 ◇◇◇

NHKスタジオ見学会 平田哲郎会員

NHKに30余年勤務された北村克彦会員のお世話でNHKのスタジオ見学が実現しました。

3月17日(水)午後2時、参加希望会員23名が担当の方のご案内にしたがって2班にわかれ、3か所のスタジオを見学しました。最初に案内されたのは、志の輔の軽妙な司会でお馴染みの「ためしてガッテン」のステージで、テレビで見慣れたセット内では収録直前の準備の最中でした。

つづいて、せまい廊下を通り、各種の機材や、待機中の出演者の道具類をよけながら、最近評判の大河ドラマ「竜馬伝」のスタジオに案内されましたが、残念ながら撮影直後の“アフターチェック”の作業に入っており、収録シーンは見学できませんでした。しかしその緊張感あふれる台詞を聴き、また時代色の濃い幕末前後の大掛かりなセットを見るにつけ、NHKの大河ドラマの迫力とスケールの大きさを実感させられた次第です。つづいてNHKの放送機能の

中核である TOC(テクニカルオペレーションセンター)に案内され、デジタル機器とアナログ機器の運用について詳しい説明を受け、さらにラジオセンターではラジオの広範なネットワークの実体の説明を聞き、テレビ、ラジオを合わせて持つNHKの高度なシステム運用に感心させられました。

さらに中継車の見学をはさんで、NHKでのスタジオ見学を終了し、別棟にあるNHKメディア・テクノロジー社に移動して、最近、立体映像映画“アバター”で大評判になっている3Dの試写を特別の計らいで見せていただきました。その素晴らしさについては、かねて予想しておりましたが、その迫力と臨場感は聞きしに勝るものでした。

特にその鋭い“飛び出し感”を強調するための弓道の矢、野球のピッチャーの剛速球が飛んでくるシーンでは、その勢いに思わずのけぞらされる程の迫力でした。



3Dの映像鑑賞中の面々

以上で約3時間近い見学を終了し、三々五々今日の感激を話しながら解散いたしました。

◇◇◇ 多摩プロバス寺子屋 ◇◇◇

出前そろばん教室



古澤会員の授業風景

古澤靖雄会員

今年5年目となる出前そろばん教室ですが、新型インフルエンザにより休校や学級閉鎖のニュースを聞いた時、関係学校はどうかと心配されましたが、最終打合せごろは沈静化に向っておりました。

今年の課題は、楽しく遊び心でそろばんを習うことと、2時限(90分)という短い時間内でいかにしてそろばんに触れる時間を多く持てるかでした。

対象小学校は、多摩第2、南豊ヶ丘、東寺方、瓜生の4校で、各校3学年生が対象。生徒数は延べ498名/1時限(45分)。期間は、延べ10日間(2/22~3/11の間)。

今回も担任教諭の80%が入替わり、ベテランと新人教諭の経験差によるものか、各教室のムードや生徒達の態度、姿勢が微妙に違うことに気がつきましたので、マニュアル指導を止め、生徒目線に合わせたアドリブで重点ポイントの反復指導に切り替えました。

教育界も従来の「ゆとり教育」が見直され、新たな「学習指導要領」を公表されたことから、今後、出前そろばん教室授業の拡大が予想されます。今年度も多くのプロバス会員が出前先生として応援して頂きましたことに、衷心より厚くお礼申し上げます。

◇◇◇ 3&4月 ハッピーバースデー ◇◇◇

誕生日を迎えた方々より

文責・稲田興会員

- ・岡野一馬(3月11日) 今寿を迎えました。白寿までは頑張りたいと夢見ています。今後ともよろしく。
- ・山田喜一(3月15日) 後期高齢医療証のお世話になることになりました。軽老から敬老の社会になるように自分を律していく所存です。
- ・小西加葉子(3月22日) あと20年「カ・キ・ク・ケ・コ」で頑張ります。カ→寛大であること、キ→機嫌が良いこと、ク→工夫すること、ケ→健康に気を配ること、コ→恋心を持つこと。一日一日を大切に生きていきます。
- ・永島仁(3月26日) 満85歳を迎えました。今さらと思いますが、何とか健康で過ごしたいと思っています。
- ・平田哲郎(3月26日) 永島仁会員とは、奇しくも生年月日が全く同じで、お互い驚いた次第です。今後はお互いに長生き競争することを約束しております。
- ・三木宗治(4月12日) 一年過ぎるのが益々早くなっているのに驚きながら、毎日の時間を大事に生きていきたい。



誕生日を迎えられた方々(左から山田、岡野、永島、平田、小西、神谷、三木、大澤 各会員)

- ・神谷真一(4月14日) 小学校の遠足で聖蹟記念館に来た思い出の場所・多摩に住んで53年になり、このふるさとを大切に生きていきたいと思っています。
- ・大澤亘(4月17日) このところ少し忙しかったので、ふと気がついたら77歳になっていたというのが実感です。夫婦そろって健康寿命をできるだけ長く保つよう努めたいと思っています。

## 多摩の歴史

蓮池守一会員、山田正司会員

- (1)多摩の集落が形成されたのは平安後期から鎌倉期ころといわれている。今の連光寺・馬引沢・聖ヶ丘・東部団地・落合村・貝取村・瓜生緑地などが含まれる。乞田川流域は吉富(キット)の庄と言われ、愛宕・柚木・関戸までつづいていた。このあたりは多摩川の氾濫原ともいわれていた。
- (2)行政的にみると、今の落合地区は柚木村、一の宮・百草地区は日野郷の一部であったが、全体としては他の市町村と合併することなく、多摩村→多摩町→多摩市と発展してきた。江戸期には旗本の直轄地となっており、悪代官などが出なかったため、住民は隠し田などで貧しいながらも一応の生活を確保することができた。

終戦時の人口は9000人であったから、江戸期の人口は推して知るべしである。戦争中は疎開者もいたが地元の人々との間でトラブルなどはなかった。

- (3)多摩に残したい遺跡としては、①関東では珍しい八角古墳の稲荷塚がある。砂岩で作られていたためぼろぼろになり、埋め戻されている。②新田義貞の鎌倉攻めに関連したものとしては鎌倉街道、鐘懸松、横溝八郎・安保入道の墓など、③江戸期では、熊野神社と霞の関南木戸柵跡や刑場跡、関戸の渡しなどがある。
- (4)文化面では、俳句、絵画、茶道、華道などが盛んであった。また、信仰心の強い土地で、集落ごとに馬頭観音や道祖神が置かれていた。一言でいえば「農民文化、大衆文化の盛んな穏やかな土地柄」であったといえる。

(文責大澤亘会員)

## ◇◇◇ 多摩の歴史散歩—その2 ◇◇◇

### 中世の多摩の村々(吾妻鏡・養和元年 1181年)

蓮池守一会員

武蔵国多磨郡小野郷に、「是以武蔵国多磨郡内吉富等一宮蓮光寺等」と三つの地名が記されています。その中の吉富は、現在の関戸から乞田川沿いと貝取辺りで、吉富はヨシトミではなくキットと言ひ、これがコッタの地名となったのではとの説もあります。

一の宮は武蔵国府中六所宮の「一之宮」として小野神社があり、この地は古代小野牧の領内で小野諸興が別当職に

あった記録があります。

府中・大国魂神社の大祭には、小野神社の神輿を氏子連が担いで府中まで渡御する行事が戦後20年代まで続いていました。

連光寺は吾妻鏡の記録以降空白が続

き、小田原北条期に向の岡一帯に陣屋と軍馬を飼う牧場の記録があり、新編武蔵風土記に「…連光寺と言へる寺院ありし故かく呼べることは疑ふべくもあらざれど、今確かなその寺院は知れず」とあります。(現高西寺の門前の南に寺坂と呼ばれる地があり、関係あるのか?)

中世期の多摩は、小山田氏、関東管領上杉氏、その後鎌倉、小田原北条氏領となり江戸期へと繋がっていました。

東寺方(関戸郷の一部)の村名は、寿徳寺、宝泉院、観蔵院等のお寺が多かったことから「寺方」と称していたが、現在の東寺方の名は、八王子市にも「寺方」があるので、明治11年以降「東寺方」になったという経緯があります。

和田村は日野市百草地域とのつながりが深く、古墳時代

からの遺跡も多くある肥沃の地。村名は江戸期の知行・和田氏によるものか?

大栗川の名は、真慈悲寺という古刹の庫裏の辺を流れていたので、大庫裏川と呼ばれていたという説もあります。

落合村は古代の国府道や小山田荘との関係、八王子横山牧との関係が深かったが、当時の記録が見当たらず、武蔵名勝図会には、天正18年八王子城で討ち死した武将の島崎屋敷、中島屋敷が現在の鶴牧・橋原台地にあつたと記されていますが、定かに説明はできません。

### 多摩市を横切る鎌倉街道

武蔵国府や奥州に通じた鎌倉街道は、相模国府道とともに中世期以降の重要な街道でした。

特に元弘3年(1333年)、新田義貞の鎌倉攻めの道が代表とされていますが、それ以前も依藤太の平将門討伐(その時霞ヶ関と名付けたとか)、源頼朝が安房の国から鎌倉へ進んだ道、日蓮大聖人が佐渡流罪の時通った等々の記録や、特に戦乱や旅の詩歌に纏わる言い伝えや遺跡・板碑等が現在も所々に残されています。

多摩市を通っている鎌倉街道は、大きく三つある中での上道(信濃道)と言われ、町田・小野路・瓜生・乞田・関戸・中河原へと、ほぼ現在の鎌倉街道に沿っていましたが、関戸熊野神社あたりから連光寺や馬引沢を抜ける支道もできたようでした。

他の中道は世田谷・板橋・古河・奥州への道、下道は、横浜・池上・浅草・下総への道とありましたが、中世期にはわが市を通る上道が最も重要視されていたようです。

(以下次号)



小野神社(多摩市一の宮)



関戸古戦場跡(多摩市関戸)

■大熊妙子会員が台湾で大正琴の演奏を披露

当クラブの大熊妙子会員は、本年2月19日から23日までの5日間、大正琴演奏のリーダーとして八王子市の指導者会14名とともに台湾の高雄市を訪問。1万人以上の市民から熱烈な歓迎を受け、2回にわたり演奏会を行った。これは、高雄市と海外友好都市関係にある八王子市が平成18年



高雄市の会で 最前列左から5人目が大熊会員歓迎

から続けている文化交流事業の一環として行われたもの。大熊会員は八王子市を代表して台湾との友好促進に貢献している。

■中村昭夫・鈴木達夫会員の活動を「たま広報」が紹介

中村昭夫会員は、多摩市国際交流センター(TIC)事務局長として2000人を超える市内在住の外国人に必要な情報を提供するとともに、市民に対しても各国の文化を紹介するなど国際交流に励んでいる。そうした同会員の活躍の詳細が、このほど多摩市の広報紙「たま広報」1月20日号に紹介された。

また、鈴木達夫会員は毎朝のラジオ体操の指導者として市民の健康増進に貢献。今年で8年目となる同氏のボランティア活動が「たま広報」3月20日号に紹介された。

■登坂征一郎・古澤靖雄会員が「おもちゃ病院」のドクターサービス



「おもちゃ病院」ドクター・登坂会員（中央）

恒例の「おもちゃ病院」が4月4日(日)、聖蹟桜ヶ丘のヴィータ7階関戸公民館ロビーの一角で開かれ、同病院ドクターの登坂征一郎・古澤靖雄の両会員がおもちゃのトラブル解消に親身に相談に乗り、こどもたちから感謝されていた。

■岡野一馬・鴻池敬和・山田正司会員、絵画作品の発表相次ぐ

岡野一馬、鴻池敬和、山田正司の各会員が所属する絵画グループ「原生会」は、恒例の作品展示会を4月17日から2日まで聖蹟桜ヶ丘のヴィータ7階市民ギャラリーで開催。地の利の良さもあって会場は会期中を通じて賑わった。

また、岡野会員は別の市民絵画グループ「早蕨会」の一員として、貝取のコーヒーショップ「白樺」での展示会に出品した。これには渡辺幸子前市長も見学に駆けつけた。



「白樺」に展示の岡野会員の作品

■山田喜一会員「多摩市民生委員・児童委員協議会」会長として提言

山田喜一会員は、「多摩市民生委員・児童委員協議会」の会長として、3月31日発行の同協議会広報紙を通じて地域での「あいさつ」と「声かけ」を提案。「あいさつ」は心配りの始まりであり、相手の架け橋となり、子どもの健全育成の第一歩になるという。

■神谷真一会員の写真が「さくら祭り」に一役

毎年恒例の聖蹟桜ヶ丘の「さくら祭り」に、今年は、神谷真一会員が、関戸公民館の依頼を受け、市内の桜の写真を出品した。川井家、富沢邸、よこやまの道、乞田川沿い、一本杉公園、いろは坂、永山さくら通り、聖蹟桜ヶ丘駅周辺、宝野公園のさくらの写真15点が4月4日(日)、ヴィータ7階市民ギャラリーに展示された。



「さくら祭り」写真会場

(大澤亘会員記)

### 炎の芸術 [水指]

上田清会員

この「水指」は狭山丘陵の一角にあった登り窯で 25 年ほど前に焼いたもので、満天の星空を仰ぎながら炎と格闘し対話する中で生まれた愚作を“私の一品”とさせて頂きました。

当時は小生もまだ若く、全盛?ともいえる時代の作品で、五島美術館が所蔵する「古伊賀水指 (破袋)」を参考に姉妹品 3 品をつくりましたが、人為的には困難とされる登り窯特有の景色・味わいがそれぞれにあって、改めて 1300 度の炎がなせる芸術性、魔性といったものを感じているところです。

また以前から「茶の湯」の世界や、そこに登場する様々な陶器にも関心をもっておりましたが、歳をかさねるにつれて侘び・さび的なもの、伝統的なものを体験し作陶していきたいとの想いがより強くなっているような気がしています。

とは申しませんが、土の選定から成形・釉薬・焼成などの過程で課題も多く、小生の技量では一抹の夢となりそうですが、今後とも茶の湯の背景にある東山文化や茶人、陶工への理解を深めながら飽くなき挑戦をして、諸兄のご期待に沿えるような一品づくりを目指していきたいと思っています。

そして欲を申し上げれば、縁あって昨年からはじめた茶道の手習いにも心掛けて自作の茶碗で一服の茶をたて、四季折々にささやかな茶会を楽しむなど、陶芸人生の最終章を心豊かに送ることができれば、これに勝るものはないと思っています。



上田清会員の力作「水指」

○今年の春は稀に見る異常気象で、一日違いで 10 度以上も変化するジグザグ気温に驚かされ、毎日の気象情報に一喜一憂させられました。楽しみにしていた花見の会も寒気で開花の遅れた桜の下で、肌寒さに震えながらの宴となり、ひたすらアルコールに暖を求める羽目になりました。

○3 月定例会での蓮池守一会員の卓話は、「消え行く多摩の史跡、農村信仰等」についての身近な具体事例を引いてのスピーチで、同会員が先号から連載されている“多摩の歴史散歩”の記事とはまた違った角度でのアプローチが印象的で、われわれ多摩市の新住民も多摩のロマンを改めて感じさせられました。

○かねて懸案でありました NHK スタジオの見学が、北村克彦会員の肝煎りで実現し、非常に見所の多い見学会になりました。特に、今回特別の計らいで披露された 3D の迫力には改めて驚かされました。

○“私の一品”として、今回は上田清会員が長年の研鑽の成果の中から“水指”を提供され、同会員の息の長い精進とこれからへの飽くなき挑戦の意欲に感銘を受けました。○ホームページも永田宗義会員のきめ細かいフォローのお陰で立派に整備され、このたび 2 回目の更新作業が終了しました。

○来る 9 月 21 日 (火) ~27 日 (月) までの 7 日間『オープンプロバス』を開催することが決定され、プロジェクトチームも結成されましたので、広報委員会も積極的にサポートすることになりました。(平田 記)

### ◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞 池田 寛

作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて

緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と

社会奉仕に力をそそぐ

集う我等プロバスクラブ

プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い

豊かな知識身につけて 次の世代の若人の

教え導く糧となる

集う我等プロバスクラブ

プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ